

活動内容

支援を繰り広げるに当たり、5つのカテゴリーをつくりました。

「聞きます」

被災地、被災者の気持ちや思いを、テレビやマスコミを通じて知ることがありますが、人の思いは多種多様です。今、必要とされている支援を行うために、できるかぎり多様なひとりひとりの「今の思い」に耳を傾けます。信頼関係を築き、そこから今必要な支援をしっかりと見つめて活動します。また、原発事故によって仙台近郊に避難されている方々の交流の場をつくります。

「調べます」

原発による大規模な放射性物質の拡散など、今後の緊急事態に適切な行動がとれるよう、防護体制について調べます。また、放射能汚染に対する国、自治体の取り組みについて、そして放射能の人体における影響と起こりうる症状について情報収集を行い、防護対策について調べます。これらの調査が命を守るにつながります。

「伝えます」

福島を中心とする放射能汚染された地域にある教会や市民団体に、調べた情報を速やかに発信します。また、講演会や学習会などを開催し、医師、ジャーナリスト、原子力の専門家、弁護士など、原発問題に精通し取り組む各界の専門家の話を聞く機会を持ちます。

「支えます」

北海道や沖縄など遠距離の「親子保養プロジェクト」に加え、仙台近郊で放射線量の比較的低い場所への近距離保養を計画・実施します。また、専門の医師をまねき、健康相談と甲状腺検査を定期的に行います。さらに癒しを目的とした「親子遊び」「親同士の語り合い(ピアミーティング)」などのプログラムを展開します。

「つながります」

全国、そして世界のキリスト教のネットワークを生かし、単独ではなしえない支援を広げます。また、放射能問題や震災後の支援に携わっている市民団体とも連携し、課題を解決していく道筋を模索し、行政に対しても積極的に働きかけます。

対策室いずみについて

私たちは日本のキリスト教におけるプロテスタントの一派です。国内・海外のキリスト教支援活動の援助を受けながら活動しています。

「いずみ」という言葉は聖書から引用しました。私たちの小さな働きが、原発事故で疲れ・不安を抱えた方々にとって「いずみ」となることができるようにとの願いを込めました。

日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ UCCJ Tohoku District Nuclear Disaster Relief Task Force



開所時間 【月～金】 8:00～17:00
【土・日・祝日】 休み

住所:宮城県仙台市青葉区錦町1丁目13-6
電話/FAX:022(796)5272
電子メール:izumi@tohoku.uccj.jp
ホームページ:<http://tohoku.uccj.jp/izumi/>

日本基督教団 東北教区放射能問題支援対策室 いずみ

～いのちをまもるために～

健康相談と検診

「子どもたちのいのちをまもる」

専門の医師を招き、放射性ヨウ素による影響を一番受けやすいとされている甲状腺のエコーによる検診を定期的に行います。

また子どもの健康に対していねいに向き合い、不安を受けとめる場としての医師による健康相談を開催します。



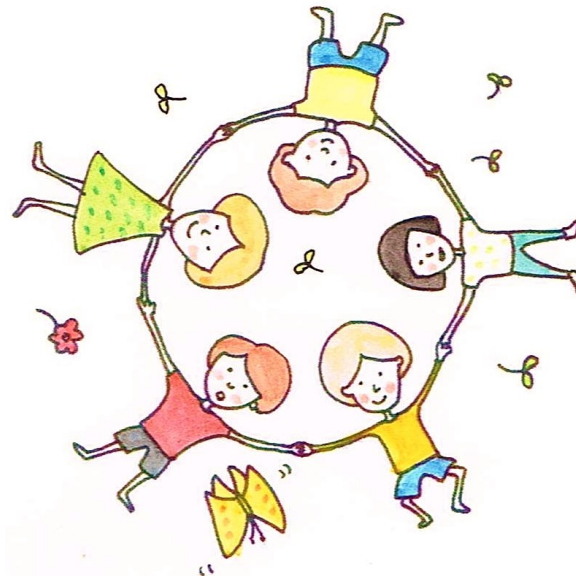
保養プログラム

「子どもたちをおもいきり外で遊ばせたい」

わたしたちは親子で参加できる短期保養プロジェクトを計画・実行します。

原発事故後、多くの子どもたちが放射能によって命を脅かされ、安心して遊ぶことのできる場を失いました。また、2011年3月11日の震災、大津波の被害によって今なお心に深い傷を負った子どもたちがいます。

「子どもたちが心に負った傷やストレスを発散し、安心してあそぶことのできるひと時を提供したい」それがわたしたちの願いです。



訪問と傾聴

「不安な気持ちに寄り添うことができれば」

放射能汚染の問題を抱えた地域、仮設住宅へ訪問させていただき、お一人お一人の思いに耳を傾けます。

それらの声・思いをもとに、今必要とされていることと私たちにできることを見つめ、より良い活動につなげます。

また、原発事故によって仙台近郊に避難している方々が集まり、思いを分かち合う場をつくります。

